

富山経協



サトザクラ '普賢象' (解説・21ページ)

CONTENTS

- 2 年度初めのご挨拶
- 3 2018年度 事業方針
- 4 2018年度 年間事業活動計画表
- 6 2018年度 委員会活動紹介
- 9 労働指標
- 10 調査報告
 - 2018年4月新卒者等の採用に関する調査結果
- 12 Top Interview
 - 北日本印刷 川口秀春社長
- 14 事業活動報告
 - 理事会、幹事会
- 15 連合との懇談会
- 16 委員会活動
- 17 講座・セミナー
- 17 参加者NOTES
- 20 新会員の紹介
- 21 会員の動き
- 22 おしらせ・事業予定



年度初めのご挨拶

一般社団法人 富山県経営者協会
会 長

金岡 克己

伝統的な組織の劣化が止まるところを知らないようです。

国家官僚の頂点に位置する財務省で、法律違反と思われる公文書（決裁文書）の書き換えが明らかとなりました。日本において、時の内閣が代わろうとも官僚組織は独自の任免制度を持ち、公僕としての矜持を保つものと思われています。裁量権ぎりぎりのラインまでの誘導はするが、法律に違反する行為はしないとの認識が覆された、極めて大きな事件ではないでしょうか。先に、厚生労働省が裁量労働制に関する調査データ捏造疑惑を引き起こしており、高級官僚の劣化は目を覆うばかりです。

一方、経済界は大丈夫かといえば、そんなことはありません。この半年に限定しても、複数の大手製造業における品質データ不正事件。また、新幹線の基幹装置、台車に亀裂が走るという重大インシデントが起きました。

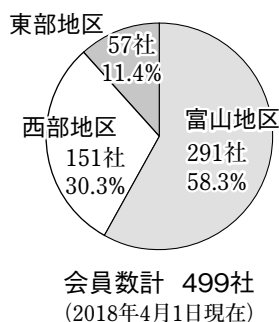
製造元によれば、現場が作業指示書を無視した製造ミスとのことですが、指示書の意味を正しく伝える努力を怠っていた、経営の責任ではないでしょうか。恐らく、以前から作られていた製品なのでしょう。初期には、設計、製造が一体となって、問題解決していたものと思われます。そして、その経験が指示書として標準化される。しかしながら、時間が経ち、担当者を入れ替わりが発生すると、指示書の内容の意味が失われ、勝手な解釈が罷り通るようになる。あながち、外れた推測とも思えません。

日本は高度に発達した先進国であり、成熟社会ですが、そのことが、何もしなくても社会インフラが維持される、企業のファンダメンタルズは維持されるとの大きな錯覚を生んでいると思います。品質保証など、地道な現場作業が軽視される一因でしょう。

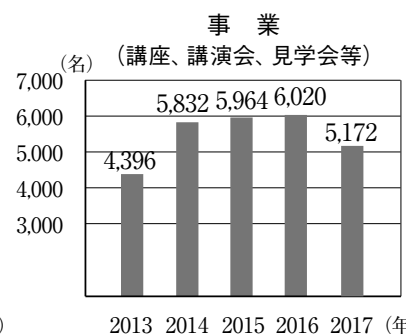
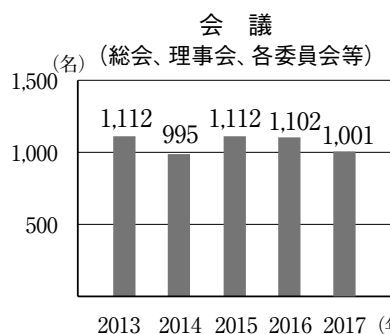
改めて申し上げるまでもなく、企業の根幹は人であり、その人がもつ知識、技術、経験です。富山県経営者協会は、引き続き「企業と人」にフォーカスをあて、会員企業の皆さまとともに、地域の発展に寄与したいと考えております。一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

協会の現況

◆ 地域別会員数 ◆



◆ 参加者数推移 ◆



2018年度事業方針

基本理念

富山経協は、創造的で活力のある企業経営の実現をめざし、
地域社会の発展に貢献します。

2018年度事業方針

世界の政治・経済情勢は、北朝鮮問題など地政学リスクがくすぶるなか、主要経済指標は堅調な成長を示しており、世界的な景気回復が貿易、経済活動、企業業績に波及している状況であるものの、世界経済の不確実性を注視するような一面もある。

一方、国内においては急速に進行している人口減少への対応、大都市への人口集中、高齢化が現実のものとなり、社会全体に関わる重要な課題が山積している状況である。

このような時にこそ、富山県経営者協会が長年「企業と人」にフォーカスしてきた事業活動が、ますます重要になっており、富山で事業を営む経営者で構成する民間経済団体として、あるべき姿を自覚し、新たな行動をすることにより、存在価値を高めていく。そのために多様化する会員ニーズに対応した経営課題の研究と広報、労働生産性の向上、会員企業で働くすべての社員の能力向上を目的とする研修・セミナー等、事業活動を進め会員サービスの向上につなげていく。

1. 企業経営に必要な情報の収集と提供をタイムリーに実施する

- (1) 経営課題に関する調査研究と情報発信を行う
- (2) 会員に必要な情報収集と発信を行う
- (3) 人事労務、環境経営、人材育成に関する相談活動の充実を図る

2. 「企業と人」にフォーカスした委員会活動を推進する

- (1) 委員会の役割・目的を明確にし、タイムリーな研究・情報発信を行う
- (2) あらゆる業種・階層に応じた人材育成の研修・セミナーを企画・実施する
- (3) 『少子化時代における現場力向上と人づくり』をテーマに研究・情報発信を行う

3. 事業活動とサービスの幅を広げ、会員相互の交流機会を支援する

- (1) 総会、幹事会、地区懇談会を開催する
- (2) 会員企業の見学会とビジネス交流の機会を提供・支援する
- (3) 多様な交流機会を提供する

4. 会員ニーズに沿った事業活動とサービスの提供

- (1) 会員訪問活動を強化し、要望やニーズを踏まえた事業活動を実施する
- (2) 研修・セミナーは実施後評価を踏まえて、スクラップ&ビルド
- (3) 「働き方改革」等、先進的事例のセミナーを開催する

5. 民間経済団体として機能発揮と地域社会の発展に貢献する

- (1) 会員状況把握、政策提言・要望活動を実施する
- (2) 行政との密な連携と相互事業を実施する
- (3) 経団連・他団体との密な情報連携を図る

2018年度 年間事業

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
会 議		理 事 会 (23日)	定 時 総 会 (23日) 理 事 会 (23日)		会 長 ・ 副 会 長 会 議 (6日) 北 陸 三 県 ・ 長 野 県 経 営 者 協 会 役 員 懇 談 会 (13日・14日)		理 事 会 (14日)	
事 業			講 演 会 (23日)		西 部 地 区 会 員 懇 談 会 (6日)		富 山 地 区 会 員 懇 談 会 (14日)	
調 査		新 入 社 員 意 識 調 査		夏 季 賞 与 調 査 初 任 給 調 査	経 営 課 題 調 査		新 入 社 員 意 識 調 査 (フ ォ ロ ー ア ッ プ 編)	
広 報		富 山 経 協 4 月 号		富 山 経 協 6 月 号 講 演 録 「 不 易 流 行 」		富 山 経 協 8 月 号		
委 員 会	総務交流	会 議		定 例 委 員 会		定 例 委 員 会		
		活 動					富 山 経 協 ゴ ル フ コ ン ペ	
	人事労務	会 議	幹 事 会	定 例 委 員 会		定 例 委 員 会		
		活 動		労 働 法 関 連 法 制 研 究 部 会	メンタルヘルス部会		労 働 法 関 連 法 制 研 究 部 会	
	教育	会 議		定 例 委 員 会		定 例 委 員 会		
		活 動	研 究 部 会 (講 座 ・ セ ミ ナ ー 検 討 会)		教 育 制 度 見 学 会	研 究 部 会 (講 座 ・ セ ミ ナ ー 検 討 会)	勉 強 会 (セ ミ ナ ー)	
	品質管理	会 議	幹 事 会			定 例 委 員 会	定 例 委 員 会	
		活 動				委 員 企 業 見 学 会		
	環境	会 議		定 例 委 員 会			定 例 委 員 会	
		活 動		県 と の 情 報 交 換	県 外 企 業 見 学 研 修 会 環 境 保 全 活 動		情 報 交 換 会 (セ ミ ナ ー)	
経営企画	会 議	定 例 委 員 会				定 例 委 員 会		
	活 動						改 善 活 動 報 告	
講 座 ・ セ ミ ナ ー	階層別研修	新 入 社 員 合 同 研 修 (4日)	職 場 リ ー ダ ー 基 本 コ ー ス < 2 日 間 > (15日・16日)		監 督 者 基 礎 コ ー ス < 2 日 間 ・ 2 回 > (A 10 日 ・ 11 日) (B 12 日 ・ 13 日) 部 課 長 実 践 講 座 < 2 泊 3 日 > (19日～21日)		管 理 職 マ ネ ジ メ ン ト 研 修 < 12 日 間 > (9月10日～2019年5月) 新 入 社 員 フ ォ ロ ー ア ッ プ 研 修 (26日)	
	共通(目的別)		仕 事 の 基 本 「 報 連 相 」 セ ミ ナ ー (29日)	好 印 象 を 与 え る コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン カ 向 上 セ ミ ナ ー (6日) チ ー ム 力 向 上 セ ミ ナ ー < 2 日 間 > (19日・20日)		な ぜ な ぜ 分 析 活 用 セ ミ ナ ー (7日) 女 性 社 員 活 躍 セ ミ ナ ー (22日)	ISO14001内 部 監 査 員 養 成 講 座 < 2 日 間 > (4日・5日) ISO9001内 部 監 査 員 養 成 講 座 < 2 日 間 > (12日・13日)	
	労務管理	人 事 ・ 労 務 管 理 セ ミ ナ ー 第 1 回 (16日)		労 働 法 実 務 講 座 第 1 回 (13日)		人 事 ・ 労 務 管 理 セ ミ ナ ー 第 2 回 (1日)	労 働 法 実 務 講 座 第 2 回 (27日)	
	品質管理	品 質 管 理 入 門 講 座 【 基 礎 編 】 < 4 日 間 > (4月12日～5月10日)		実 践 し な が ら 学 ぶ 統 計 的 手 法 活 用 講 座 < 14 日 間 > (5月24日～11月29日)				
	生産管理			も の つ くり と 現 場 改 善 実 践 セ ミ ナ ー < 1 泊 2 日 > (12日～13日) I E 手 法 に よ る 生 産 現 場 の 改 善 セ ミ ナ ー (22日)				
	購買管理							
	営業	営 業 力 基 礎 セ ミ ナ ー < 2 日 間 > (24日・25日)						
	経理					経 理 基 礎 ・ 管 理 会 計 基 礎 講 座 (24日)		

活動計画表

10月	11月	12月	2019年1月	2月	3月	
	会長・副会長会議 (9日)				理事会 (8日) 幹事会 (8日)	会議
	東部地区会員懇談会 (9日)		経済団体新春互礼会 (4日)		連合富山との懇談会 (8日)	事業
経営課題調査	冬季賞与調査 新春アンケート			2018年度調査報告書	新卒者採用調査 春季賃金改定状況調査	調査
富山経協10月号		富山経協12月号	富山経協新春号	富山経協2月号		広報
定例委員会		定例委員会				会議
	会員交流ボウリング大会					総務交流 活動
	幹事会	定例委員会		定例委員会		会議
メンタルヘルス部会	労働法関連法制 研究部会		メンタルヘルス部会	労働法関連法制 研究部会		活動
		定例委員会		定例委員会		会議
研究部会 (講座・セミナー検討会)	研究部会 (講座・セミナー検討会)	情報交換会 (グループディスカッション)		教育制度見学会		活動
	幹事会	定例委員会		定例委員会		会議
県外企業見学研修会				委員企業見学会		活動
	幹事会	定例委員会				会議
県内企業見学会	環境保全活動			県内企業見学会		活動
	定例委員会					会議
						経営企画 活動
職場リーダー実践コース <2日間> (2日・3日) 若手社員実践コース (23日)	管理職基礎コース <2日間> (6日・7日)			職場リーダー実践コース <2日間> (19日・20日)	若手社員ステップ アップコース (5日)	階層別 研修
ヒューマンエラー 未然防止セミナー (5日) 改善力養成セミナー 【基礎編】 (12日) 会議の生産性を向上する ビジネス・ファシリテーター 養成講座 (25日)	ヒューマンエラー 対策講座【実践編】 <2日間> (20日・21日) 働き方改革を推進する 業務仕組み化セミナー (28日)		CS顧客満足基礎 セミナー (22日)		改善レベルアップ セミナー【応用編】 (6日)	共通 (目的別)
	労働法実務講座 第3回 (28日)			春季労使交渉セミナー 労働法実務講座 第4回 (13日)		労務 管理
労務管理実務講座<5日間> (10月10日~11月12日)						
			品質管理入門講座【実践編】<4日間> (1月17日~2月14日)			品質 管理
	5Sと目で見える管理 実践セミナー (14日) ものづくり女性社員 のための改善力向上 セミナー (27日)					生産 管理
				購買管理実践 セミナー (21日)		購買 管理
						営業
						経理

2018年度 委員会活動紹介

総務交流委員会

委員長 武内 繁和

(武内プレス工業株式会社
代表取締役社長)



総務交流委員会では、多様化する会員ニーズに対応した共通の経営課題に関する情報交換を行い、人脈構築の場につなげるとともに、行政、他団体との連携を深めるという方針に基づき、各種調査、広報、会員交流事業の開催等を行っております。

企業経営に関わる定期的な調査活動はもとより、会員相互の親睦を深める毎年恒例のゴルフコンペ、ボウリング大会の他、婚活イベント、企業見学研修会など、ますます多様化する会員の皆様のニーズにお応えすべく、異業種間でのネットワークづくりや相互交流の場を提供できるよう、タイムリーな活動を展開していきたいと考えております。

今年度も当委員会主催の行事に多数参加いただきますよう、引き続き会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

【活動概要】

<定例委員会>

委員相互の情報交換・経験交流の場として定期的に開催しており、調査活動におけるタイムリーな経営課題テーマの選定や会員交流事業の活性化などについて審議を行っております。

<調査活動>

「調査活動」は、総務交流委員会が主体となって実施しております。毎年、賃金改定、初任給、賞与、新卒採用等に関する調査や、その時々の経営課題に関する調査を実施し、調査結果を報道機関に公表するとともに会員の皆さまに機関誌やホームページを利用して、有用でタイムリーな情報提供を行っております。

<事業活動>

「会員交流事業」として、9月にゴルフコンペ、11月にボウリング大会を実施いたします。また、婚活支援事業を12月に実施する予定です。他委員会との合同開催も考慮して企業見学研修会を開催する予定です。

人事・労務政策委員会

委員長 笠井 千秋

(株式会社タカギセイコー
取締役相談役)



当委員会の目的は、企業における「人」の活用に関わる諸制度・法令を研究し衆知を図るとともに、健全な労使関係を維持し時代に即した労務政策の研究・提言により、会員企業の経営の安定・発展に貢献することです。

今年度の事業活動計画については、「働き方改革関連法案」について、今国会で法案化の帰趨が徐々に明らかになってくると思われるなか、法案内容等の情報共有を進めるとともに、具体的な改革への取り組みについて県内先進事例の共有とともに、行政機関等とも連携し幅広く啓蒙活動を展開する予定です。

また、各種講座事業および部会活動では、経営側からの視座に立ち迅速かつ的確な情報提供を行ってまいります。

会員企業の皆様のご参加、ご協力をよろしくお願いいたします。

【活動概要】

<定例委員会>

委員相互の情報交換・経験交流の場として定期的に開催しており、県や労働局等の外部団体との情報・意見交換も行っております。

今年度は「働き方改革」の推進に関する最新情報の確認や情報交換・勉強会を実施するとともに、「人事労務に関する取り組み事例の共有」をねらいに企業見学会も実施する予定です。

<研究部会活動>

- ・労働法関連制研究部会（年4回開催）最新の労働判例について、弁護士を講師に判例解説、意見交換を実施しております。
- ・メンタルヘルス部会（年3回程度開催）実務担当者を中心にメンタルヘルスに関する勉強会・意見交換会を実施しております。

<事業活動>

経営者協会で開催する人事・労務に関わる講座・セミナーで取り上げるテーマや内容について審議を行い、①人事・労務管理セミナー、②労働法実務講座、③労務管理実務講座を開催しております。

教育委員会

委員長 松原 隆光
(株式会社ピア
代表取締役)



当委員会は、企業環境の変化に対応して、人材育成や企業内教育の諸課題について幅広く調査研究し、会員企業の社員教育、社員の資質向上の一助とし、会員企業の発展に貢献することを目的としております。

人手不足が深刻化し、働きやすい職場環境を整備することが企業に求められている中、さらなる労働生産性向上に取り組む必要があります。

そこで、委員会活動としては「教育制度見学会」や「勉強会」、「講座・セミナー検討会」などを通じて人材育成に関する幅広い情報交換と研究を行いたいと考えております。また、「階層別研修」をはじめ「職能別研修」など時宜に適したテーマ・内容でより効果の高い研修を企画実施し、会員企業の皆様の継続的な発展に寄与していきたいと考えております。

皆様のご参加、ご協力をお願いいたします。

【活動概要】

<定例委員会>

定例委員会を6月・8月・12月・2月の年4回開催しております。6月と2月は「教育制度見学会」を、8月と12月は「社内講師養成」および「業務効率化」に関する「勉強会」を定例委員会と合わせて実施する予定です。

<研究部会活動>

「講座・セミナー検討会」として、2018年度実施する階層別研修に部会員が実際に参加し、問題点・課題点を見つけ出し改善することで、今後の階層別研修のさらなる充実を図ります。

<事業活動>

階層別研修を11講座、職能別研修を12講座開催します。特に新設講座として「若手社員実践コース」「職場リーダー基本コース」「ビジネス・ファシリテーター養成講座」「働き方改革を推進する業務仕組み化セミナー」と、時宜に適したテーマ・内容で開催いたします。

品質管理委員会

委員長 谷川 正人
(コーセル株式会社
代表取締役社長)



当委員会の目的は、企業における「顧客・品質第一」を核にした品質経営・品質管理活動の研究や基本となる考え方・科学的管理手法などを普及・浸透することより、会員企業の発展に貢献することです。

グローバル化が進展し、産業構造変化や技術革新競争が加速する中、「何を守り、何を变えるべきか」を明確にして、品質経営に取り組む必要があります。

委員会活動としては、「委員相互の情報・経験交流」、「品質管理の基礎や考え方を内・外から学ぶ活動」を通して、会員企業各社の品質経営における問題・課題の本質をとらえ、実効性のある活動を推進し、少しでも自社の体質強化に役立ててもらいたいと考えています。

皆様のご参加、ご協力をお願いいたします。

【活動概要】

<定例委員会>

委員相互の情報交換・経験交流の場として定期的に開催しており、「品質管理の基礎や考え方を内・外から学ぶ活動」として、委員企業見学会、グループディスカッションを行っております。

また、品質管理活動の意識を高めるため、実際に目で見て体感することをねらいに毎年県外企業見学研修会を実施しております。

<事業活動>

人材育成に関わる講座・セミナーを開催し、委員の講座・セミナー担当制を実施し、委員と講師の情報交換を行い、内容の見直しなど次回の改善につなげております。



環境委員会

委員長 矢野 茂

(北陸電力株式会社
代表取締役副社長)



当委員会の目的は、活動を通じて、持続可能な循環型社会を目指し、かけがえのない地球環境を次世代へ引き継ぐとともに、事業活動による環境負荷を極力削減し、環境保全と安定的経済社会の両立を図ることです。

前年度は、環境に関する講演会や企業見学会を実施し、新しい知識の習得や各企業の環境への取組みについて学びました。また環境保全活動としてオイスカ富山県支部の森づくりボランティア活動に参加し、植樹と下草刈りを実施しました。

今年度も、行政による環境施策や地球温暖化対策等の環境問題に関する情報提供、環境保全活動の実践、企業見学会の実施など、皆様の環境対策に役立つ活動を行ってまいりたいと考えております。

皆様のご参加、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

【活動概要】

<定例委員会>

委員相互の情報交換・経験交流の場として、定期的に開催しており、行政による環境施策や地球温暖化対策等の環境問題に関する情報提供を行っております。

また、他社の活動を見て学ぶ県内・県外企業見学研修会の実施、地球環境を次世代へ引き継ぐための環境保全活動に参加をしております。

<事業活動>

講座・セミナーとして、自社の「環境マネジメントシステム」を公正かつ客観的に評価できる内部環境監査員の養成を目的に、「ISO14001内部監査員養成講座」を開催いたします。



経営企画・IT委員会

委員長 牧野 賢藏

(株式会社インテック
常務執行役員)



当委員会は、「経営者・経営層を対象とした経営課題に関する研究・調査を行いその成果を情報発信するとともに、経営理念や方針等を社員に浸透させる取り組みや仕掛けについての勉強会・見学会を企画実施すること」と、「企業経営環境の変化に対応し広く企業経営に関する重要課題を委員会で議論・意見交換し、その中で浮かび上がった緊急課題は理事会に提言し協会の政策立案につなげる」ことを活動目的としております。

2018年度は「人口減少時代における現場力向上と人づくり」をテーマに、経営課題についての研究・調査活動、およびその成果の情報発信や行政・他団体とも連携した施策の実施や支援など、会員企業のみなさまの発展に貢献できるように取

り組んでまいりますので、皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

【活動概要】

経営者の役割に特化した経営課題をテーマに研究・調査活動について審議・検討を行い、議論の中で浮かび上がった緊急課題については理事会に提言し、協会の政策立案につなげております。その上で、総会や地区会員懇談会における講演会等の企画・実施を行っております。

理事会の諮問を受け、特命事項について事前にテーマを設定し、定例委員会での情報交換を行っております。

また、ITインフラ部会においては、企業の生産性向上にむけ、経営の切り口からIT活用について調査・研究を行っているほか、参加企業間でのIT活用や情報セキュリティのあり方等について情報交換を行っております。

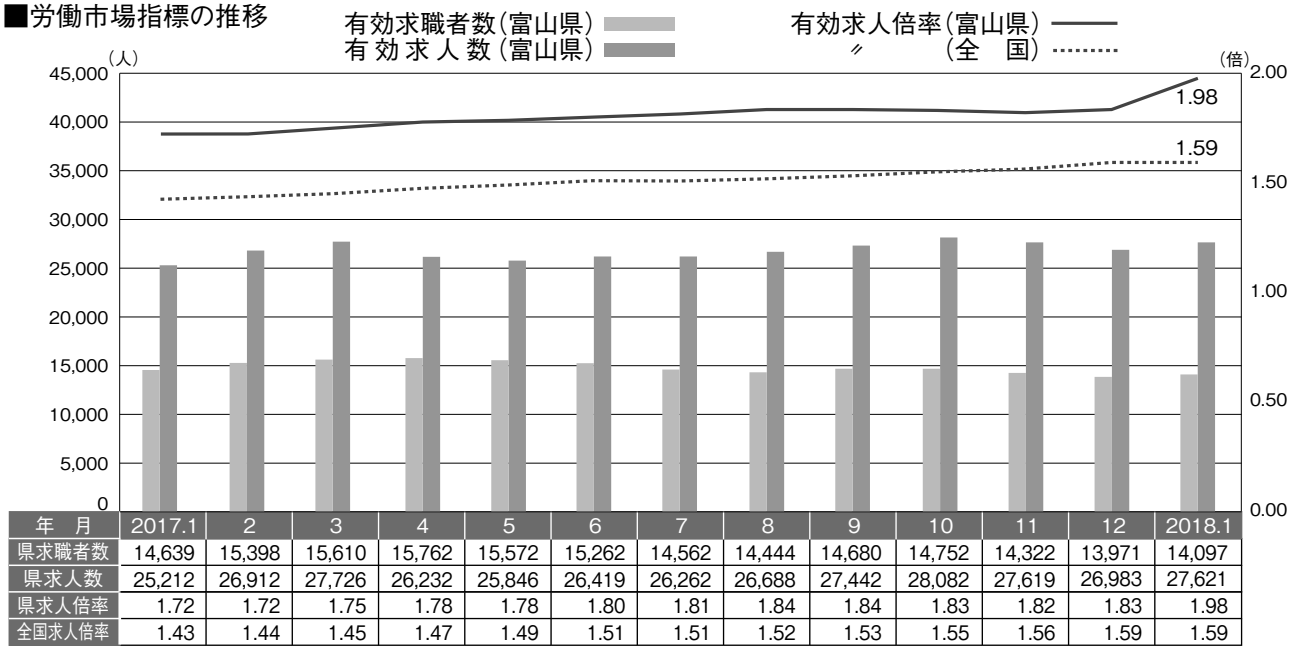
委員会活動についてのお問い合わせは 事務局まで

TEL (076) 421-9588

Eメール info@toyama-keikyo.jp

労働指標

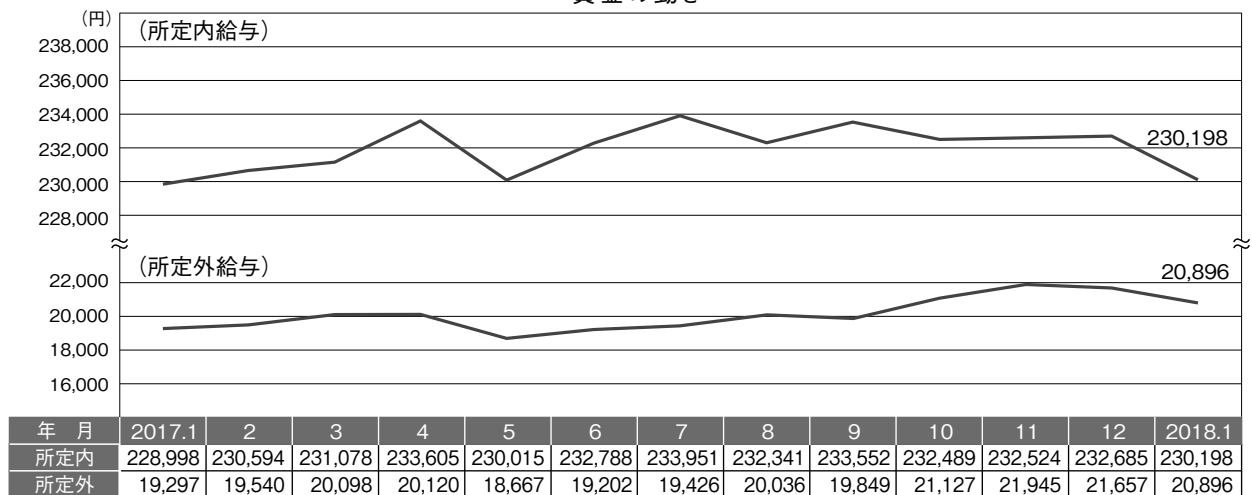
労働市場指標の推移



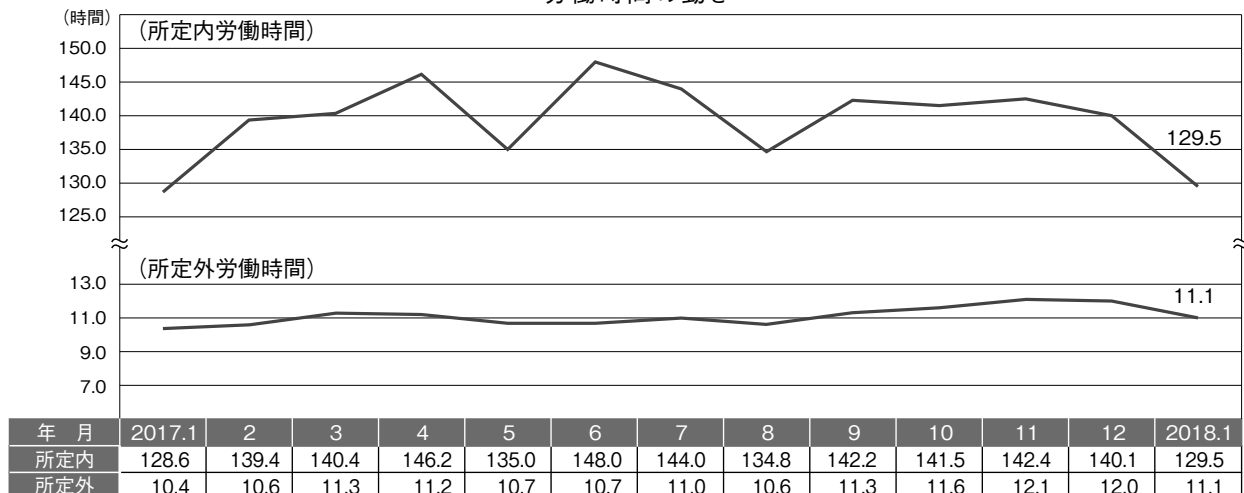
出典：富山労働局「労働市場月報」http://toyama-roudoukyoku.jsite.mhlw.go.jp/jirei_toukei/shokugyou_shoukai/toukei.html

賃金・労働時間の動き(調査産業計、事業所規模：5人以上)

賃金の動き



労働時間の動き



出典：とやま統計ワールド「毎月勤労統計調査 地方調査月報」<http://www.pref.toyama.jp/sections/1015/lib/maikin/index.html>

2018年4月新卒者等の採用に関する調査結果

前年比9.5%増加、製造業は5.5%増、非製造業13.9%増

2019年4月採用も増加の見込み

当協会では標記調査結果をまとめた。2018年4月（'18/4）新卒者の採用実績は、全産業では前年比9.5%の増加となった。産業別の内訳は、製造業が5.5%、非製造業が13.9%の増加となっている。

また、2019年4月（'19/4）の採用予定数は、具体的数値で回答があった企業で見ると、全産業では '18/4の採用実績に対して23.4%の増加となり、産業別では、製造業が20.2%、非製造業が27.1%の増加の見込みとなっている。

〔調査対象企業等〕

回答は232社からいただいた（回収率47.2%）。内訳は製造業119社、非製造業113社である。この調査は1995年より毎年行っているもので、今回は24回目となる。

1. 新卒者の採用状況

（1）2018年4月採用実績

全産業・全学歴計で見ると、2017年4月（'17/4）の2,330人に対して '18/4は2,551人で221人増加（+9.5%）となった。

産業別で見ると、製造業では '17/4の1,220人に対して '18/4が1,287人で67人増加（+5.5%）した。また、非製造業でも '17/4の1,110人に対して '18/4が1,264人で154人増加（+13.9%）となった。

次に学歴別にみると、大学院卒が '17/4の268人から '18/4の255人（13人減、▲4.9%）と減少した以外は、すべての学歴で増加している。増加数が最も多かったのが大学卒で114人（1,088人から1,202人、+10.5%）、増加率が最も高かったのが高校卒で13.7%（747人から849人、102人増）であった。 （図表1）

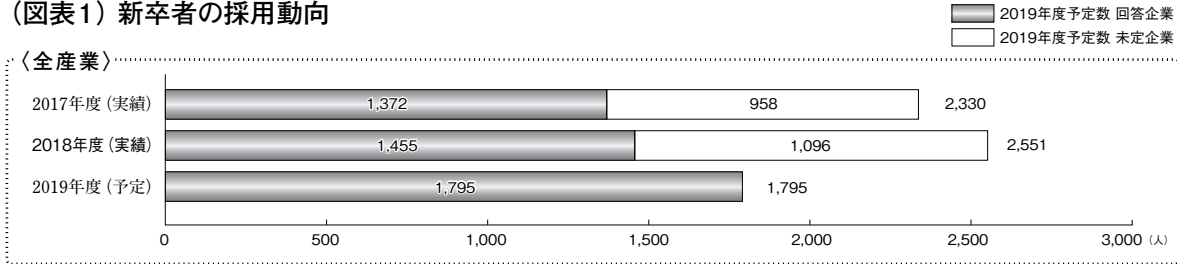
（2）2019年4月採用予定

'19/4の採用予定数について、具体的数値で回答があった156社の合計は1,795人で、同じ156社の '18/4の採用実績1,455人に対して340人増（+23.4%）となっている。また、'19/4の採用予定者数を未定としている企業が76社（'18/4の採用実績1,096人）あり、これらの企業についても同様に増加が期待される。

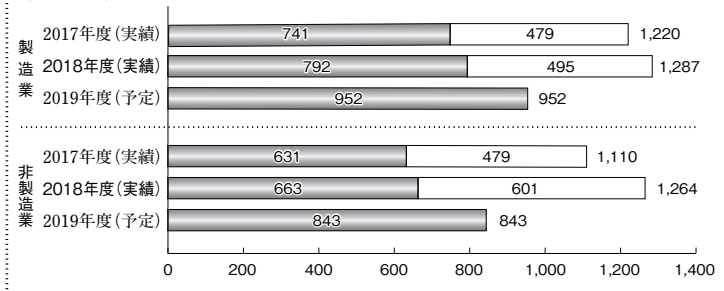
産業別で見ると、製造業では '19/4の採用予定者数について具体的数値で回答があった79社の合計は952人であり、同じ79社の '18/4の採用実績792人に対して160人増（+20.2%）の見込みとなっている。業種別では「電子・電気機械器具製造業」（224人）、「汎用・生産機械器具製造業」（172人）等が多くなっている。

また、非製造業でも、'19/4の採用予定者数について具体的数値で回答があった77社の合計は843人であり、同じ77社の '18/4の採用実績663人に対して180人増（+27.1%）の見込みとなっている。業種別では「金融・保険業」（227人）、「卸・小売」（226人）、「建設業」（186人）等が多くなっている。 （図表1、表2）

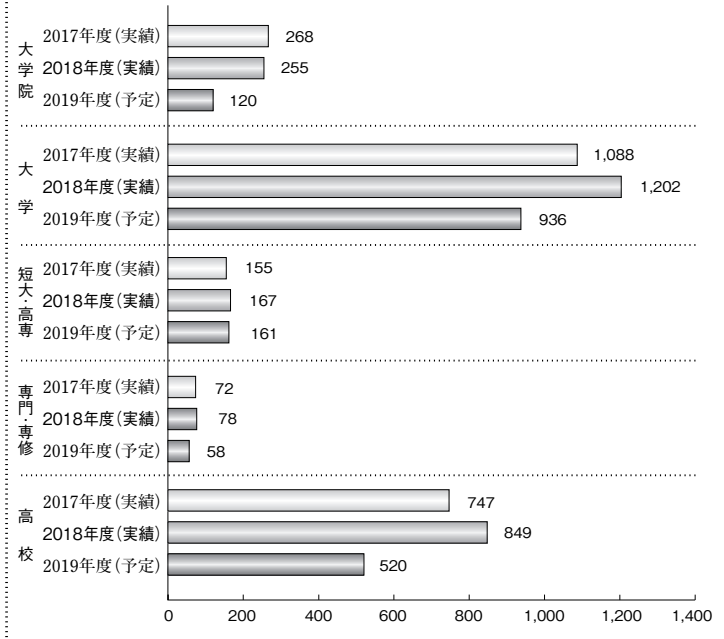
(図表1) 新卒者の採用動向



(産業別)



(学歴別)



※ 2017年度及び2018年度実績には2019年度採用未定企業の人数が含まれている。

(表2) 2019年度業種別採用予定状況

産業区分	回答企業数 (社)(ウチ未定)	採用予定 人数(人)
食料品・飲料	3 (2)	5
繊維	6 (3)	24
木材・パルプ・紙	5 (1)	37
印刷	4 (2)	22
化学	25 (12)	86
プラスチック・ゴム	9 (2)	71
鉄鋼・非鉄金属	6 (2)	53
金属製品	16 (6)	55
汎用・生産機械器具	22 (6)	172
電子・電気機械器具	12 (1)	224
輸送用機械器具	8 (3)	42
その他製造業	3 (0)	161
製造業計	119 (40)	952
建設	22 (5)	186
電気・ガス	3 (2)	1
情報通信	13 (7)	47
運輸	14 (5)	38
卸・小売	28 (7)	226
金融・保険	7 (3)	227
宿泊・飲食・生活関連	3 (2)	1
学術・専門・技術サービス	10 (1)	68
教育・医療・福祉	5 (2)	10
サービス・その他非製造業	8 (2)	39
非製造業計	113 (36)	843
全産業計	232 (76)	1,795

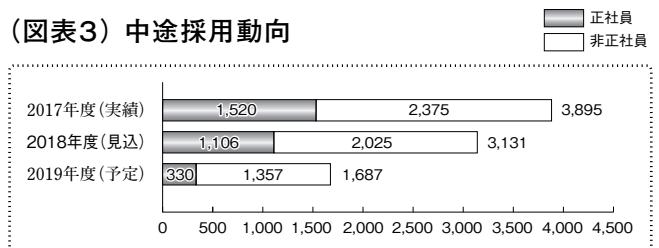
2. 中途採用の状況

'17年中(1~12月)に中途採用を行った企業は、232社中192社(82.8%)であった。'17年中の採用実績は3,895人となっている。

また、中途採用者のうち正社員として採用されているのは、3,895人中1,520人(39.0%)であった。

(図表3)

(図表3) 中途採用動向



健康経営で 働きがいのある職場 新領域へ拡大目指し提案型へ

北日本印刷株式会社
代表取締役社長

川口 秀春 氏



昨年、創業70年を迎えられました。沿革を教えてください。

1947年に北日本新聞社の一角を間借りして創業しました。活版印刷がまだまだ主流だった1966年、全国に先駆けて写真植字（写植）システムを導入し、全国から視察訪問があったと聞いています。カラー化、デジタル化が進む2003年には、北陸地区で最初の全自動8色両面印刷機を導入し、短納期にも対応できるようにしました。

一方で環境対応でも、2001年に環境管理の国際認証ISO14001を取得。2011年には水なし印刷システムを導入しました。通常の印刷で必要な「湿し水」と呼ばれるアルカリ水を使用しないため、環境にも社員の身体にも負荷がかかりません。また、水を使わないので紙が伸びず、ズレのない高品質な印刷が実現できます。

2012年に導入したUV印刷機は紫外線を照射することで速乾する

特殊インキを使用し、印刷物の乾燥時間がなくなりました。

－技術力と提案力を磨く－

常に最新の技術を取り入れ、環境負荷低減にも積極的です。

良い品質を求めて、まずはやってみようということです。印刷機やインキのメーカーさんと一緒に技術開発することで、技術の蓄積になります。将来的に他社が同じ設備を導入しても、ニーズによって技術を使い分け、お客様の思いを形にすることで、選ばれる印刷会社であり続けたいと思っています。また、社員が自由闊達に、誇りを持って働くことのできる会社でありたいと思っています。

現在の課題は何ですか。

以前、活字は印刷会社だけのものでしたが、パソコンや複合機の普及で簡単なものは個人でできるようになりました。また、写真館がカレンダーを作っているように、業界の垣根もなくなってきました。

最盛期は9兆円だった印刷業界の市場規模は、現在4兆円台と言われています。価格競争が激しくなる中で、これまでの受注産業から変わらなくてはなりません。

具体的にどのような事でしょう。

2年前に社長直轄の「SP（ソーシャル・プランニング）セクション」を作りました。「印刷の仕事はありませんか」という従来の営業ではなく、お客様の製品やサービスに対して、パッケージやノベルティグッズなど、新しい提案をしていこうという部署です。

「情報メディア企業として、あらゆる領域の『より効果的なコミュニケーションづくり』をお手伝いしていくことで、豊かな文化生活と社会の発展に貢献する」とい

う企業理念の通り、色々な業種と関わりのある印刷会社の視点から、お客様の商品やサービスを社会に広めることができるのではないかと考えます。営業マンにも、お客様の思いをキャッチし、新たな発想で企画提案、商品開発にチャレンジしていこうと言っています。

他にも自社開発商品として、「おもしろい富山弁」を印刷した缶バッジやクリアケースなどを作り、北陸自動車道の有磯海サービスエリアでお土産品として販売しています。

新たな広がりですね。

最近イベントや展示会に積極的に出展しています。富山マラソンには第1回からスポンサーとして協賛し、イベントスペースでPRしていますし、金融機関のビジネス展示会や福祉関連のイベントにも参加しました。

色々な人と出会って、情報交換する中から、新しい展開に繋げること、営業マンが初対面の人から話を聞き出すスキルを身につけることも狙っています。何より私自身ワクワクしています。

—会社が率先して健康づくり—

人材育成についてどのようにお考えですか。

社長に就いてすぐに、全社員と個別面談をしました。率直な考えや意外な一面を知ることができる良い機会で、その後も4回実施しています。その中で、組合からの要望で、定期的に社内巡回を行うようになりました。

また、部署ごとに意識のズレを感じましたので、全体会議も毎年開いています。会社の課題をいくつか与えて、丸一日かけてセッションごと、幹部ごと、全体で、議



論し合って考えています。本音を出し合い、社員同士がコミュニケーションをとってお互いの考え方を理解し、それぞれの成長にも繋がりたいと思っています。

個々の人材教育に関しては、小さい会社では限度があるので、業界関連団体や経営者協会の社員研修などを利用しています。

女性の登用はいかがですか。

全社員47名のうち女性は23名でほぼ半数、そのうち6名が主任以上の役職に就いています。女性比率は同業の中でも多い方だと思いますが、管理職となると、打診しても辞退される場合があります。今後の課題です。

昨年12月、とやま健康経営シンポジウムで県から「健康づくり企業大賞」を受けられました。

健康保険委員をしていたこともあり、社員の健康の大切さを実感しており、健康は将来的に働きがいのある職場に繋がります。一人一人健康に対する意識が違うので、会社が率先して意識づけしなければいけないと思っています。

特定保健指導の100%実施、階段には消費カロリーステッカーを貼り、マラソン大会やウォーキングイベントへの参加を推奨しています。また、朝礼時には激励する「ペップトーク」を行っています。

—昨年、協会けんぽの「健康企業宣言」のステップ1認定を受け、続けて昨年、経済産業省と日本健康会議による「健康経営優良法人」に中小規模部門で県内初の認定を受けました。

少子化による人手不足が進み、健康で働ける人材がますます重要になってきます。

当社でも今年70歳になる社員が生き生きと仕事をしています。昔ながらのダジャレも職場を和らげてくれています。

座右の銘は。

「為せば成る」。困難があっても、やり続けることで成就する。そういう気持ちでやっています。まず行動しないと何も始まりません。

略歴

1953(昭和28)年5月生まれ。射水市出身。1972年高岡商業高校卒業後、北日本印刷(株)入社。総務課長、総務経理部部長などを経て、2006年取締役経営管理部部長、2009年6月から代表取締役社長。富山県印刷工業組合富山支部長。

会社概要

北日本印刷株式会社

創業：1947(昭和22)年4月
所在地：富山市草島134-10
資本金：3,000万円
事業内容：印刷業
従業員数：47名(2018年3月現在)
URL：http://www.knpkk.co.jp

事業活動報告

理事会

3月2日(金) 17時30分から富山電気ビル4階7号室で、金岡会長はじめ副会長5名、専務理事、監事2名が出席して「理事会」を開催した。

議案 (1)2018年度事業方針承認の件、(2)2018年度暫定予算承認の件、(3)新会員5社の承認の件、(4)職務権限規程承認の件について審議し、承認された。



幹事会

3月2日(金) 16時30分から富山電気ビル5階中ホールで、57名が出席して「幹事会」を開催した。金岡会長の挨拶の後、下記の報告を行った。

■ 2017年度事業報告と2018年度予算案報告

(1) 2017年度事業報告

定時総会は5月22日に開催し、2016年度事業報告・財務諸表、県に提出する公益目的支出計画実施報告書、2017年度事業計画・損益予算、理事および監事選任について審議し承認された。

理事会は4、5、3月の3回と、書面理事会を3回開催した。

会員懇談会は、7月に西部地区、9月に富山地区、11月に東部地区と3回開催し、経済5団体による新春互礼会は1月4日に開催した。

広報調査活動としては、機関誌は新春号を加え7回発行した。講演録は総会、地区会員懇談会での講演をまとめ小冊子やホームページに掲載した。定期調査は7件、経営課題調査は2回実施した。

委員会活動について、武内総務交流委員会委員長、笠井人事・労務政策委員会委員長、松原教育委員会委員長、谷川品質管理委員会委員長、矢野環境委員会委員長、牧野経営企画・IT委員会委員長より報告があった。

(2) 2017年度収支見通し報告

受取り会費は会員増により約51.5百万円、事業収益



は講座・セミナーおよびオーダーメイド研修の増加により約45.2百万円、雑収益は約1.3百万円となり、経常収益は約98.1百万円を見込んでいる。これは、予算に対して約4.6百万円の増となる。一方、経常費用は98.6百万円で、予算に対して約1.3百万円の増となる。

この結果、評価損益等調整前当期経常増減額見込みは、予算に対して約3.3百万円の収支改善となる見込み。

(3) 2018年度暫定予算案報告

受取り会費は約52.1百万円、事業収益は約41.4百万円、雑収益は約0.8百万円とし、約94.3百万円の予算とした。一方、経常費用は約100.2百万円とした。この結果、評価損益等調整前当期経常増減額はマイナス5.8百万円となる。

以上3議案について報告された。

■ 教育委員会研究部会報告

教育委員会研究部会が2カ年にわたり取り組んだテーマ「富山県経営者協会の階層別研修の研究」について、(株)品川グループ本社 経営企画部長の近江副部長、(株)スギノマシン 管理部総務・人事グループリーダーの山口副部長の2氏が報告した。



「人材育成体系図の見直し」「若手層・中堅層の階層別研修の強化」など、活動の成果を発表した。

2018年度 人材育成体系図

階層		階層別研修		
経営幹部	役員 部長		管理職 マネジメント 研修	部課長 実践講座
管理職	課長	管理職 基礎コース		
中堅層	係長 主任	職場リーダー実践コース		
		職場リーダー基本コース		
		監督者基礎コース		
若手層	一般社員	若手社員実践コース		
		若手社員ステップアップコース		
新入社員	新人	新入社員合同研修	新入社員フォローアップ研修	

連合との懇談会

連合富山と富山県経営者協会との懇談会が3月2日(金)、富山電気ビル4階で開催された。当協会からは金岡会長はじめ、武内、笠井、三鍋副会長、人事・労務政策委員会の寺拝、片野副委員長、宮崎専務理事の7名が、連合富山からは辻会長はじめ12名が出席した。

懇談に先立ち、辻会長から金岡会長へ定期昇給相当分を含めて4%程度の賃上げと労働者の立場にたった働き方およびワーク・ライフ・バランスの実現など、5項目を盛り込んだ要請書が手渡された。

要請書では、すでに超少子高齢化・人口減少社会による人口動態の変化や技術革新によって生活や「働くこと」に対するマインドが変化し、ようやく「働き方改革」が社会全体で課題として認識されつつあるが、「働き方」は産業・企業・職場によって様々である。「健全な労使関係にもとづいた取り組みが、勤労者、企業、社会を豊かにしていく」という労使機能の重要性を「働き方」の見直しを通じて改めて社会に発信していくものとし、それらの背景を踏まえ

- ① 賃上げの要求（定期昇給含め4%程度）
- ② すべての労働者の立場にたった働き方の実現
- ③ ワーク・ライフ・バランスの実現
- ④ 法定最低賃金の引き上げ
- ⑤ 公正取引の実現

の5項目について要請するとしている。



さらに辻会長は、「労使が職場の課題に真摯に向き合い取り組みを展開することで社会全体を豊かにすることが春季生活闘争の役割であり使命であるものと考えている」と強調した。

これを受けて、金岡会長は「健全な労使関係を築き上げることが人間社会の発展に繋がり、働き方改革についても労使一体になって進めて行くことが重要であり理解できる。その一方で賃上げの継続を求める連合側の主張に対し、少子高齢化の時代における持続可能性という点で疑問がある。IoT、AIなどの技術革新によって労働生産性を高め、付加価値を分配していく視点が必要である」と挨拶をした。

自由討議では、同一労働同一賃金の実現、中小企業の事業承継の課題、個人消費の伸び悩み、物の値段が上がらない経済環境で給与以外の法定保険料がアップしている状況では月次賃金アップより雇用を守ることを優先せざるを得ない、さらに労使が協力して国内で生産性を上げていき労働分配率を高めていくことが必要であるなどの意見が出された。

2018年2月13日～4月9日

	事業名	委員会名	開催日	場所	参加者数
会 議	教育委員会「定例委員会」	教育	2月20日(火)	富山経協・研修室A	21名
	人事・労務政策委員会「定例委員会」	人事・労務政策	2月22日(木)	富山商工会議所ビル	24名
	品質管理委員会「定例委員会」	品質管理	2月22日(木)	朝日印刷(株)富山工場	21名
	連合富山役員と富山経協役員との懇談会		3月2日(金)	富山電気ビル	7名
	幹事会		3月2日(金)	富山電気ビル	57名
	理事会		3月2日(金)	富山電気ビル	9名
	経営企画・IT委員会「定例委員会」	経営企画・IT	4月5日(木)	富山経協・研修室B	8名
講 座 ・ セ ミ ナ ー	第2回係長・主任実践コース	教育	2月14日(水)・15日(木)	富山商工会議所ビル	60名
	品質管理入門講座<実践編>	品質管理	2月15日(木)	富山経協・研修室A	27名
	管理職マネジメント研修	教育	2月16日(金)～17日(土) 3月15日(木)	富山県農業総合研修所 富山経協・研修室A	25名
	購買管理実践セミナー	教育	2月21日(水)	富山経協・研修室A	27名
	労働法実務講座(第4回)	人事・労務政策	2月23日(金)	富山県民共生センターサンフォルテ	36名
	企業(組織)における情報セキュリティ基礎セミナー	経営企画・IT	2月28日(水)	富山経協・研修室A	17名
	若手社員活性化コース	教育	3月6日(火)	富山商工会議所ビル	52名
	改善レベルアップセミナー(業務改善・応用編)	教育	3月8日(木)	富山商工会議所ビル	49名
	新入社員合同研修	教育	4月4日(水)	インテックタワー111ビル	209名

人事・労務政策委員会

■定例委員会

2月22日(木)、笠井委員長はじめ委員24名が出席して、富山商工会議所ビルで開催した。

笠井委員長の挨拶後、富山県インターンシップ推進センターの松浦センター長が「県内大学等在籍学生の県内企業定着(就職)促進」について説明し、促進事業への参

加を呼びかけた。その後、富山国際大学現代社会学部教授 キャリア支援センター 上坂センター長と、富山高等専門学校本郷キャンパス 校長特別補佐 電気制御システム工学科西田教授より、各校の取り組みについて説明を受けた。

続いて大学等のキャリア・就職担当者11名が加わり、採用活動状



況、学生の就職活動に関するグループディスカッションを行った。

教育委員会

■定例委員会

2月20日(火)、松原委員長はじめ委員21名が出席して、富山商工会議所ビルで開催した。

松原委員長の挨拶後、2018年度事業活動計画について説明し、定例委員会に合わせ、6月は教育制度見学会をトナミ運輸(株)で開催す

ること、8月は「研修講師養成講座」、12月は「業務効率化研修」の勉強会を行うこと、2月は教育制度見学会をYKK(株)で計画していることを報告した。

その後、研究部会で2年間取り組んだテーマ「富山県経営者協会の階層別研修の研究」について活



動発表を行った。

品質管理委員会

■定例委員会

2月22日(木)、谷川委員長はじめ委員21名が出席して、朝日印刷(株)富山工場で開催した。

定例委員会に先立ち、委員企業見学会を開催した。同社は医薬品の製造管理および品質管理に関する基準であるGMPに準拠した品質管理システムを構築しており、生産エリア内は完全無窓化にする

ことで機密性を高めて防虫・防塵対策を行うなど、高品質な生産体制を実現していた。

定例委員会では、2018年度事業活動計画について説明し、7月と2月の委員会は委員企業見学会を合わせて行うこと、9月と12月はグループディスカッションと懇親会を合わせて行うことなどを確認した。また、日本科学技術連盟が



主催する「品質管理シンポジウム」への団体会員での入会について審議し、入会することで承認を得た。

経営企画・IT委員会

■定例委員会

4月5日(木)、牧野委員長はじめ委員8名が出席して富山経協・会議室で開催した。

牧野委員長の挨拶後、2018年度の事業計画について審議を行い、協会テーマである「人口減少時代における現場力向上と人づくり」に基づき、①総会ならびに地区会

員懇談会の講演会は「働き方改革」をテーマに企画する、②現場力向上につながるオーダーメイド研修、ものづくり現場リーダー研修は継続して実施することが承認された。続いて「各社の働き方改革」および「富山に若者を呼び込む(U I Jターン)」についてディスカッションを行った。



次回委員会は8月3日に開催する。

階層別研修

■第2回係長・主任実践コース

2月14日(水)・15日(木)、60名が参加して、富山商工会議所ビルで開催した。

講師の(公財)日本生産性本部主任経営コンサルタント澤倉光仁氏は、企業や組織をとりまく環境の変化を踏まえ、リーダーシップとマネジメントの観点か

ら、係長・主任の位置付けと果たすべき役割について講義した。その中で、①目標達成に導く実践的な展開方法(PDCA手法)、②部下の性格等に応じた育成の考え方やスキル、③部下育成技術としての交流分析やコーチング技法、④リーダーシップ発揮の要点と方法などについて説明し、受講者はグ



ループ討議で意見交換し理解を深めた。

■若手社員活性化コース

3月6日(火)、52名が参加して富山商工会議所ビルで開催した。

本研修は入社1年～3年程度の若手社員を対象に「自ら組織に働きかけ、組織の活性化に貢献できる」人材となるための心構え・知識・スキル、さらには後輩を指導するための「後輩指導力」を養うことをねらいに、今年度内容を新た

に企画した。

(公財)日本生産性本部主任経営コンサルタントの筒井健太講師は、仕事とは一人の才能や強みを貢献に変えるプロセスであるとした上で、①仕事哲学、②リーダーシップ、③チーム力、④後輩指導力について、講義やグループディスカッションで受講者同士の経験を共有しながら学んだ。最後に、受講



者は本研修で学んだ事を自社で活用するために「実践活用シート」を作成し、個人目標を立て終了した。



参加者NOTES

「若手社員活性化コース」を受講して

株式会社押田建築設計事務所
第二設計室

河邊 洋人



私はこの4月に社会人2年目を迎えます。振り返れば、上司や先輩の後ろで日々様々な経験を積み重ねていただきながら、あっという間に1年が過ぎたように感じます。新社会人として先輩方のサポートを受けながら仕事をしてきましたが、これからはチームの一員として仕事に努めていきたいと考え、講義を傾聴致しました。

講義では、『社会人としての心構え』として、仕事の本質は「お客様が喜ぶ価値」にあり、お客様だけでなく周囲も喜び、工夫が行われ続ける仕事こそが「良い仕事」であると知りました。また、リーダー

シップとは仕事を進めるために、組織の活動に自ら働きかけることであると学びました。

私は今回の講演で、お客様が喜ぶことこそが仕事の価値になると気づき、これからは自分の仕事は誰に喜んでもらえるのか、どの様にすることで、より一層喜んでもらえるのかを考え、仕事に努めてまいります。また、これまでリーダーシップはチームリーダーに求められる能力だと考えていましたが、リーダーシップとは主体性のことであり、チーム内のすべての人間が発揮できる能力であると気づきました。そして、それは周囲

からの信頼によってその効果が変わると知り、これからは業務内だけでなく、常日頃から周囲に対し誠実に向き合うことで信頼を築き、リーダーシップを発揮できるよう励んでまいります。

『組織における自らのあり方』では、目的や目標を周囲と共有・連携することで相乗効果を生み出し、価値を創造する為に自主的に働きかけることが重要であると知りました。また、後輩指導力では相手のことを尊重し、相手のために思って「褒める」や「叱る」という情報提供行為が、組織として共に成長できる人間関係を築いていくことを学びました。今までは自分の中での目標を作り仕事をしていましたが、これからは目標を周囲に発信することで、より高い目的の達成や社会に対する価値の提供ができるよう努めてまいります。

階層別研修

■ 2018年度 新入社員合同研修

4月4日(水)、45社209名の新入社員が参加し、インテック111ビル スカイホールで開催した。

「社会人としての基本と企業人としての心構え」を学ぶことを狙いに、(公財)日本生産性本部 主任経営コンサルタント 筒井健太氏、(株)コトノハ 代表 廣川奈美子氏、島崎社会保険労務士事務所 所長 島崎裕美子氏、そして当協会 井上孝副会長の4氏が講義・講話した。



第1部
経営者講話



井上副会長が「新入社員の皆さんに望む」と題して講演した。

これからの会社を担うのは君たちである。まずは社会人生活スタートにあたり、意識と生活スタイルを変え、仕事の意味と目的をきちんと理解し、わからないことは上司や先輩に遠慮せず質問して、同期の仲間と励まし合い、研鑽し合ってほしい。

YKK(株)創業社長 吉田忠雄の言葉に「もう紙一枚の努力」がある。一生懸命に仕事をした後で、もうあと紙一枚分の0.0何ミリという、紙一枚分の厚さの努力をその上に乗せる。「もうこれ以上できない」しかし、そこで奮起して



もう紙一枚分の努力を365日、毎日続けることによって、結果的には大きな変化に繋がっていく。

企業理念を理解して、行動規範を守った上で、素直さやコミュニケーション力、主体性を発揮し、実際の現場に入り基礎から学び、自分の役割が何なのかを常に意識して、情熱と気概を持って仕事に取り組んでほしいと講演した。

第2部 学生から社会人へ・
職場のコミュニケーション・
指示命令の受け方と報告の仕方

筒井講師が、学校生活と社会人生活の違いを正しく理解することや、新たな環境での態度や行動について説明した。

仕事に取り組む意識として、組織の目的と社会的責任を認識しなければならないとし、顧客意識、品質意識など5つの意識と、整理、整頓など安全の4Sを常に意識しなければならないとした。その上で、良い仕事とは「お客さまがよろこぶ仕事」「周囲がよろこぶ仕事」「工夫がおこなわれ続ける仕事」の3つであるとした。

次にコミュニケーションを行う際の心構え、上手なコミュニケーションのための基本、報告・連絡・相談の大切さと、指

示命令の受け方として、呼ばれたらメモを取る、復唱するなどの具体的な心構えを指導した。

第3部 社会人としてのマナー・
職場のマナー

廣川講師が、社会人として必要なマナーについて、第一印象の大切さ、身だしなみのポイントや挨拶の仕方などを講義した後、セルフチェックリストによる自己診断や受講者同士の実技訓練などを行った。



島崎講師が、職場での基本的なマナー・ルールについて、会社のルールである服務規律を守ることの大切さ、職場の風紀・秩序を乱す行為は慎むことなど、企業人として法律に基づき守らなければならない職場での基本について講義した。

第4部 まとめ・レポート作成

筒井講師が研修を総括し、受講者は本研修で学んだことを自社で活用するため、「実践活用シート」を作成し終了した。

共 通

■企業(組織)における

情報セキュリティ基礎セミナー

2月28日(水)、17名が参加し富山商工会議所ビルで開催した。

ITコーディネータ富山会長の吉田誠氏は冒頭、企業における情報セキュリティ対策の実態を紹介した上で、情報セキュリティの基本的な考え方や日常業務に潜む情

報漏えいリスク、コンピュータを利用する際の脅威とその対策、企業に求められている対策などについて解説した。また、チェックシートを用いて自社のセキュリティレベルを確認し、現状に応じた対策の進め方を検討した。そして、独立行政法人情報処理推進機構が作成した解説動画がホームページに



アップされているので、いつでも試聴できることを紹介した。

■改善レベルアップセミナー

〈業務改善・応用編〉

3月8日(木)、49名が参加して富山商工会議所ビルで開催した。

この講座は、9月に開催した「改善セミナー基礎編」に続く応用編で、改善活動を「指導・推進・牽引」するための具体的なノウハウについて検討し、改善活動のレベルアップを実現するために実施している。

日本HR協会 K A I Z E N 事業部「創意とくふう」編集人 東澤文二講師は、手間をかけず、カネをかけず、知恵を出して「工夫」する改善が重要であり、改善のレベルアップのためには、改善を積み重ねる「連続改善」と改善を組み合わせる「複合改善」が有効であるとした。また、参加者が実際に企業の現場で抱えている問題・課題について具体的な改善事例に基づい



てアドバイスが行われたほか、改善事例は手間をかけず書き出し、定石集として取りまとめることを勧めた。

労 務 管 理

■労働法実務講座(第4回)

2月23日(金)、「働き方改革関連法案の解説」をテーマに36名が参加して、富山県民共生センターサンフォルテで開催した。

第一芙蓉法律事務所の木下潮音弁護士は、働き方改革関連法案は労働基準法を含む複数の労働法規の改正をセットにした「一括法案」であり各論ベースでの賛否については現状分かれている状態にある

が、法改正を待たずして各社で対応を進めていく必要のある事項も多数含まれていると指摘した。2017年3月28日に働き方改革実現会議で決定された「働き方改革実行計画」に基づき、「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律案要綱」を解説し、特に重要な「長時間労働の是正のための36協定の上限規制」、「インターバル制度の導入」、「同一労働



同一賃金」などに関して、実際に企業で必要となる対応の具体的なポイントについて判例を交え解説した。

購 買 管 理

■購買管理実践セミナー

2月21日(水)、27名が参加して、富山経協・研修室Aで開催した。

「求められる購買実務の方向性とその展開」について、(公財)日本生産性本部 主席経営コンサルタント 藤本忠司氏は、購買・調達部門に求められる役割は高度化・多様化しており、単なる調達

を行うだけの部門ではなく、生産性の向上、販売拡大に貢献する利益貢献部門となることが期待されているとした上で、調達機能の評価方法や調達改革を進める方法について、具体的な成功事例・失敗事例を交えて解説した。講義に加え、調達コスト削減のための適正価格を検討するワーク等も行い、



購買・調達部門の役割の大きさを再認識した。

新会員の紹介

(50音順)

■ 株式会社アポケアとやま

所在地 富山市向新庄町4丁目14番48
代表者 代表取締役 藤井 明美
設立 1998年(平成10年)6月
資本金 3,080万円
従業員 県内 47名
事業内容 総合高齢者福祉事業



■ テクノメタル株式会社

所在地 高岡市石丸708番地
代表者 代表取締役 澤田 哲郎
設立 1991年(平成3年)6月
資本金 9,000万円
従業員 県内 20名
事業内容 アルミニウム二次精錬



■ 株式会社サブリ

所在地 富山市黒崎643番地1
代表者 代表取締役 八橋 謙二
設立 1998年(平成10年)5月
資本金 1,000万円
従業員 県内 13名
事業内容 医薬品配置販売業



■ 豊富産業株式会社

所在地 滑川市下梅沢1341
代表者 代表取締役 高倉 康氏
設立 1970年(昭和45年)12月
資本金 3,000万円
従業員 県内 39名
事業内容 製鋼原料販売、アルミベース
メタル製造販売



■ 三芝硝材株式会社

所在地 高岡市岩坪23-2
代表者 代表取締役社長 西 英夫
設立 1957年(昭和32年)8月
資本金 4,875万円
従業員 県内 191名
事業内容 板ガラス加工業



■ 富士通株式会社 富山支店

所在地 富山市新桜町2-21 富士通ビル
(本店 神奈川県)
代表者 支店長 戸塚 健
設立 1935年(昭和10年)6月
資本金 3,246億円
従業員 県内 45名
事業内容 情報通信業・情報サービス業



■ 三晶技研株式会社

所在地 滑川市上小泉1586
代表者 代表取締役社長 法嶋 正夫
設立 1969年(昭和44年)6月
資本金 6,000万円
従業員 県内 235名
事業内容 精密金型、ダイカスト製品、
プラスチック製品製造、自動
機製作



■ 森永北陸乳業株式会社 富山工場

所在地 富山市向新庄町八丁目3番45号
(本社 福井県)
代表者 取締役工場長 濱本 隆之
設立 1961年(昭和36年)5月
資本金 9,080万円
従業員 県内 84名
事業内容 アイスクリーム製造業



■ 有限会社ステップアップ

所在地 中新川郡上市町法音寺1-2
代表者 代表取締役 川合 紀子
設立 2001年(平成13年)4月
資本金 3,000万円
従業員 県内 8名
事業内容 パソコンスクール、職業訓練、
職業紹介



■ 株式会社リョーシン

所在地 富山市婦中町地角600-1
代表者 代表取締役 高野 治
設立 2011年(平成13年)12月
資本金 5,000万円
従業員 県内 30名
事業内容 廃棄物機器設備の設計・設置
・保守・販売



会員の動き

(50音順)(敬称略)

■ 代表者の変更

株式会社 岡部

代表取締役社長 岡部 竜一 (前: 稲積欣治)

共栄火災海上保険株式会社 富山支店

支店長 藤 保美 (前: 松原康雄)

十全化学株式会社

取締役社長 廣田 大輔 (前: 宇川敏夫)

株式会社 スカイインテック

代表取締役社長 佐野 洋 (前: 今井喜義)

株式会社 大和 富山店

店長 中崎 俊也 (前: 岡本志郎)

東洋紡株式会社 富山事業所

事業所長 川本 和雄 (前: 吉川雅敏)

株式会社 富山アメニティシステム

代表取締役社長 関口 真弘 (前: 須河宗昭)

いかわ信用金庫

理事長 岸 和雄 (前: 小林茂太)

日産化学工業株式会社 富山工場

執行役員工場長 西田 雄二 (前: 岩田武史)

株式会社 ヒスコム

代表取締役社長 加藤 徳治 (前: 清水淳正)

株式会社 日立国際電気 富山事業所

執行役 電子機械事業部 生産統括本部長

兼 生産統括本部 量産設計本部長

兼 富山事業所長 柳川 秀宏 (前: 小川雲龍)

明治安田生命保険相互会社 富山支社

支社長 宇田 正孝 (前: 岡本光浩)

■ 役職位の変更

株式会社 インテック

取締役相談役 金岡 克己 (前: 取締役会長)

株式会社 新栄電設

代表取締役会長 清田 力三 (前: 代表取締役社長)

東亜電工株式会社

代表取締役会長 辻田 恵一 (前: 代表取締役社長)

株式会社 ニュージャパントラベル

代表取締役社長 松田 隆 (前: 代表取締役会長)

YKK株式会社

特別顧問 井上 孝 (前: 副社長 黒部地区担当 黒部事業所長)

■ 所在地変更

アイティ経営コンサルタント株式会社

〒930-0871 富山市下野16 富山市新産業支援センター 2F
(前: 富山市高田527 富山県総合情報センター533号室)

エヌアイシ・オートテック株式会社

〒939-8032 富山市流杉255 (前: 富山市清水元町7-8)

■ ご逝去

ご冥福をお祈りいたします。

十全化学株式会社 取締役社長 宇川敏夫 氏



表紙の花
サトザクラ '普賢象'

(富山県中央植物園 中田政司)

普賢菩薩の乗る象に由来

サトザクラとは、日本に野生するオオシマザクラを中心に、ヤマザクラやエドヒガンなどとの交配により作られた園芸品種群の総称で、八重咲きで花の美しいものが多く、中でも '普賢象' (ふげんぞう) は室町時代にすでに記録があるという古い品種です。

普賢象の名前は、花の中央にある2本の雌しべ(写真参照)が、普賢菩薩が乗っている白象の牙を連想させることに由来します。この雌しべは、よく見ると基部が葉のような形をしています。雌しべや雄しべ、花弁などは葉が変形して生じたと考えられており、それを裏付けるのが普賢象の雌しべです。

花は塩漬けの原料に

普賢象の花はソメイヨシノが散った後の4月

下旬に最盛期を迎え、はじめ淡紅色をしていますが、次第に白色に変わっていき、散り際には中心部が赤味を帯びます。花は大型で直径4~5cmになり、花弁の数は30~40枚あります。

同じサトザクラで花色が濃い品種 '関山' (かんざん、せきやま) と共に、桜の花の塩漬けの原料にされます。塩漬けを作る方法はいろいろありますが、手軽にできるのは、花が5分程度に開いた時に花柄の根元から摘み取り、萼を取り除き、軽く水洗いして水気を取り、花の20%の塩と梅酢で3日ほど塩漬けした後、陰干しして粗塩をまぶして保存します。桜守(さくらもり)として著名な佐野藤右衛門氏は、著書で「塩漬けは普賢象が一番」と述べておられます。 花の拡大▶



5月23日(水)

一般社団法人 富山県経営者協会

第73回 定 時 総 会

16:00～16:30 定時総会 (富山国際会議場 2階)

16:50～18:00 講演会 (富山国際会議場 3階メインホール)

演 題 「キンビールの働き方改革」(仮)

講 師： キリンホールディングス株式会社
取締役常務執行役員 三好 敏也 氏

18:10～19:30 懇親会 (ANAクラウンプラザホテル富山 3階「鳳」)

事業予定

2018年4月16日～6月15日

詳しくはホームページ(<http://www.toyama-keikyo.jp/>)
「講座・セミナー案内」をご覧ください。

	開 催 日	時 間	事 業 名	委員会名	場 所
会	4月23日(月)	15:00～16:00	人事・労務政策委員会「幹事会」	人事・労務政策	富山経協・研修室B
	4月23日(月)	16:30～17:30	理事会		富山経協・研修室A
	5月16日(水)・17日(木)	13:30～15:00	人事・労務政策委員会「定例委員会」	人事・労務政策	高岡高等支援学校 富山高等支援学校
	5月23日(水)	16:00～19:30	定時総会・講演会・懇親会 上記「おしらせ」参照		富山国際会議場・ ANAクラウンプラザホテル富山
	5月23日(水)	16:30～16:35	理事会		富山国際会議場
	5月29日(火)	15:00～16:20	環境委員会「県との情報交換」	環 境	富山商工会議所ビル
講 座 ・ セ ミ ナ ー	5月29日(火)	16:30～17:00	環境委員会「定例委員会」	環 境	富山経協・研修室A
	4月16日(月)	9:30～16:30	人事・労務管理セミナー<第1回>	人事・労務政策	富山経協・研修室A
	4月19日(木)・26日(木) 5月10日(木)	9:00～17:00	品質管理入門講座<基礎編>	品質管理	富山商工会議所ビル
	4月24日(火)・25日(水)	9:30～16:30	営業力基礎セミナー	教 育	富山商工会議所ビル
	5月11日(金)～12日(土)	9:00～17:00	管理職マネジメント研修	教 育	富山県農業総合研修所
	5月15日(火)・16日(水)	9:30～16:30	職場リーダー基本コース	教 育	富山商工会議所ビル
	5月24日(木) 6月 7日(木)	9:00～17:00	実践しながら学ぶ統計的手法活用講座	品質管理	富山経協・研修室A
	5月29日(火)	9:30～16:30	仕事の基本「報連相」セミナー	教 育	富山商工会議所ビル
	6月 6日(水)	9:30～16:30	好印象を与えるコミュニケーション力向上セミナー	教 育	富山商工会議所ビル
	6月12日(火)～13日(水)	9:00～16:30	ものづくりと現場改善実践セミナー	品質管理	インテック大山研修センター
6月13日(水)	13:30～16:00	労働法実務講座<第1回>	人事・労務政策	富山商工会議所ビル	

「富山経協」vol.839

2018年(平成30年)4月号
2018年4月15日発行(隔月発行)

一般社団法人 富山県経営者協会

〒930-0083 富山市総曲輪2丁目1番3号(富山商工会議所ビル 別館5階)

TEL (076) 421-9588 FAX (076) 421-9952

ホームページ <http://www.toyama-keikyo.jp/>Eメール info@toyama-keikyo.jp